

2019年6月18日

## ミッション・ブルー・ホープスポット・カウンシルメンバーの皆様

沖縄県名護市の住民、人類学者、および沖縄環境正義プロジェクトの代表として私、吉川秀樹は、日本自然保護協会（NACS-J）による名護市辺野古・大浦湾のミッション・ブルーのホープスポットへの登録申請に対する賛同書を提出いたします。私は辺野古・大浦湾の環境を守るための国際的な取り組みに15年以上携わってきました。この地域は、その貴重な生物多様性と、この地域を開発から守ろうとする人々の取り組みにより、登録に値すると信じています。この登録が地球の海の不可欠な部分である辺野古・大浦湾を守るためのより強力な国際的取り組みにつながることを切に願っています。

### 辺野古・大浦湾の生物多様性

NACS-Jの推薦書類に詳述されている通り、辺野古・大浦湾は世界有数の生物多様性に富んだ地域です。私は地元住民として辺野古・大浦湾の近くに住んでいることを誇りに思い、この地域が私たちの生活に多くの恵みを与えてくれていることに感謝しています。

わずか13平方マイル（20 km<sup>2</sup>）の地域に絶滅のおそれのある262種を含む約5,300種の海洋生物が生息しています。ここは絶滅危惧種のジュゴン、ウミガメ、エリグロアジサシ、そして世界最大級のアオサンゴ群集の生息地です。辺野古・大浦湾の豊かな生物多様性の価値と謎は、583,000平方マイル（1,510,000 km<sup>2</sup>）の面積に約7,000の海洋生物種が生息する米国ハワイ州のパパハナウモクアケア海洋ナショナル・モニュメントに匹敵するものです。

辺野古・大浦湾の環境の価値は、辺野古・大浦湾の北10マイル（16 km）の沖縄島北部がユネスコの世界遺産（自然遺産）の暫定リストに記載されていることから理解できます。辺野古・大浦湾は、沖縄島北部のより大きな生態系の一部を成しています。沖縄島北部をユネスコの世界遺産（自然遺産）に登録するためには、辺野古・大浦湾への悪影響を避ける必要があります。

### 軍事基地建設と辺野古・大浦湾保護の取り組み

この地域は比較的人口が少ないという理由で、不幸にも1997年に米軍基地の建設用地に選定されました。日米両国政府は地元の猛反対にもかかわらず建設計画を押し進めてきました。基地の建設には166ヘクタールの海域の埋め立てが必要です。基地が建設された場合、1800メートルの滑走路が2本、大型軍艦が着岸するための大規模軍港も建設されます。この計画が自然環境保全上もたらす便益は皆無であり、破壊のみがもたらされると考えられます。

幸いなことに、基地建設計画に対する地元の反対派は国内外の環境NGO、平和団体、人権団体、学者、および芸術家たちから幅広い支持を得ています。反対派の多様性はこの問題の複雑さを反映するものであり、反対派が長年にわたって用いてきた創造的アプローチと戦略の基盤でもあります。私自身も現在米国で控訴審が行なわれている米国国防省を提訴した、いわゆる「ジュゴン訴訟」で米国の環境NGOと協力してきました。また、辺野古・大浦湾の窮状に対して国際社会の注意を集めるため、国際自然保護連合（IUCN）のメンバーたちとも協力しています。

国内および国際的な取り組みによって建設計画を中止させることはできませんでしたが、建設計画に関連する問題点や欠陥を明らかにし、政府により保全的な措置を講じるよう要

求しながら、建設を15年以上遅らせることができました。これがさらに遅れることが予想されます。

### **「悪影響なし」の結論と科学的根拠に基づく政策と関与**

日本政府が基地建設を推進する法的根拠は、基地の建設と運用は辺野古・大浦湾の環境に悪影響を及ぼさないと結論づけた沖縄防衛局による環境影響評価（EIA）でした。

しかし、米国国防総省の委託を受けた海洋生物学者、日本の科学者および専門家たちが指摘した通り、沖縄防衛局による環境影響評価プロセスには欠陥がありました。また、海域の埋め立て工事が始まってから大浦湾とその近くの嘉陽からジュゴンの姿が消えたことが示すように、「悪影響なし」という結論は誤りでした。影響は痛々しいほど顕著であり、取られた緩和策のほとんどは効果がなかったことが証明されています。

現在辺野古で進行中の基地建設は粗末な評価に基づく不十分な科学と政策がもたらした悲劇的な結末です。その結果、日米両国政府は両国の法律や規制を侵害しながら、かけがえのない環境を徐々に破壊しています。

### **登録申請を支持する上で望むこと**

辺野古・大浦湾をミッション・ブルーのホープスポットに登録することで、この地域の豊かな生物多様性の国際的認知度が高まり、基地建設の問題、およびこの大切な海洋環境を守るための人々による取り組みがより良く理解されるようになると信じています。ホープスポットへの登録が、科学の役割についての批判的検討を促し、科学に基づいた政策と市民の参画が実現し、基地建設計画に対抗し、これまでに引き起こされた環境被害からの回復の機会をもたらすことを切に願っています。私はこの取り組みにおいて自分の役割を果たす決意でいます。

敬具

吉川秀樹